

海軍公報(部内限)第四千七十二號

昭和十七年四月二十日(月)
海軍大臣官房

○令達

官房第二三七六號

當分ノ間作戦其ノ他ノ必要ニ依リ給與掌理者ト分離シテ行動ヲ爲ス者ニ付特ニ必要アル場合ニ於テハ其ノ給與掌理者ハ海軍給與令施行細則、海軍内國旅費規則其ノ他ノ規定ニ拘ラズ一時其ノ給與ノ掌理ヲ本人最寄ノ支出官又ハ出納官吏ニ委託スルコトヲ得
前項ニ依リ給與ノ掌理ヲ委託スルトキハ携帶給與通牒ヲ用フベシ
携帶給與通牒ノ取扱規程、様式及其ノ他本令施行上ノ細目ニ關シテハ海軍省經理局長ノ定ムル所ニ依ル

昭和十七年四月十八日

海軍大臣

○通牒

官房第二三七九號

昭和十七年四月二十日

海軍次官

各廳長殿

恩給年數勲年加算ノ件通牒

昭和十七年内閣告示第三號(以下告示第三號ト稱ス)ニ依ル加算ノ適用範圍等左ノ通定メラレ候

記

一 告示第三號第一項ノ規定ニ依ル戰地戰務加算

(イ) 適用範圍

左ニ掲グル各號ノ一ニ該當スル者ニシテ告示第三號第一項ニ掲グル地域ニ在リテ勤務シタルモノ

(一) 外戰部隊ニ屬スル艦船部隊ノ勤務員

(二) 内戰部隊及補給部隊ニ屬スル艦船(特設艦船ニ非ザル徵備船舶ヲ含ム)ノ乗員但シ特ニ定ムルモノヲ除ク

(三) 前二號ノ外直接作戰ニ從事シタル者ニシテ海軍大臣ニ於テ前二號ノ一ニ準ズルモノト認メタ

海軍公報(部内限)第四千七十二號

昭和十七年四月二十日

三九三

1751

ルモノ

(ロ) 加算ノ始終期

(一) 昭和十六年十二月七日以前ニ告示第三號第一項ニ掲グル地域ニ到リタルモノハ同年十二月八日ヲ、同年十二月八日以後同地域ニ向ケ該地域以外ノ地域ヲ出發シタルモノハ最終ニ之ヲ出發シタル日ヲ始期トス

(二) 告示第三號第一項ニ掲グル地域ヲ離レ該地域以外ノ地域ニ向ヒタルモノハ最初ニ之ニ到着シタル日ヲ終期トス

(三) イ號ノ三該當者ニ付テハ別ニ定ム

二 告示第三號第二項ノ規定ニ依ル航空基地戰務加算

(イ) 適用範圍

昭和十六年十二月八日ヨリ同十七年二月十二日ニ至ル間臺灣、南支那及佛領印度支那所在航空基地ニ在リテ直接戰闘ニ從事セル海軍航空部隊ノ勤務員

(ロ) 加算ノ始終期

(一) 昭和十六年十二月七日以前ニ當該航空基地ニ到リタルモノハ同年十二月八日ヲ、同年十二月八日以後當該航空基地ニ到着シタルモノハ其ノ

到着ノ日ヲ始期トス

(二) 昭和十七年二月十二日以前ニ於テ最終ニ當該航空基地ヲ離レタル日ヲ終期トス

三 告示第三號第三項ノ規定ニ依ル戰地外戰務加算

(イ) 適用範圍

左ニ掲グル各號ノ一ニ該當スル者ニシテ帝國內(告示第三號第一項第一號ニ掲グル地域ヲ除ク)ニ在リテ直接防衛ニ關スル勤務ニ從事シタルモノ

(一) 外戰部隊ニ屬スル艦船部隊ノ勤務員

(二) 内戰部隊及補給部隊ニ屬スル艦船(特設艦船ニ非ザル徵備船舶ヲ含ム)、部隊ノ勤務員但シ

學生、練習生、補缺員及之ニ準ズル者ヲ除キ、兼務者ハ主トシテ當該艦船部隊ニ於テ勤務セル場合ニ限ル

(ロ) 加算ノ始終期

昭和十六年十二月八日以後(イ)號ノ(一)又ハ(二)ニ該當スル期間トス

(參照)

内閣告示第三號

公務員ノ在職年ニ付恩給法第三十二條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ戰爭ノ期間及地域、航空基地及航

1752

空基地タル期間、職務ノ範圍竝ニ第三十三條第一項ノ規定ニ依リ加算ヲ爲スベキ擾亂ノ地域及期間左ノ趣勅裁ヲ經タリ

昭和十七年三月二十七日

內閣總理大臣 東條 英機

從軍加算及擾亂地勤務加算ニ關スル件

昭和十六年十二月八日以後左記ノ地域ニ在リテ戦闘力構成ニ參加從軍シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

一 南島島、南洋諸島及新南群島

二 九龍半島(舊英國租借地)及香港

三 緬甸、泰、馬來半島、蘭領東印度諸島、英領ボルネオ、ニューギニア島、ピスマルク諸島、オーストラリヤ、比律賓諸島及ハワイ諸島竝ニ其ノ他ノ太平洋上及印度洋上ノ島嶼

四 太平洋(帝國ノ第一號ニ掲グル地域以外ノ地域、滿洲、第二號ニ掲グル地域以外ノ支那及佛領印度支那ノ港域ヲ除ク)及印度洋

航空部隊ニ屬シ左記ノ空基地及空基地タル期間ニ於テ直接出動部隊ニ關スル勤務ニ從事シタル公務員ニ對シ恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依ル加算

ヲ爲ス

(左記省略)

昭和十六年十二月八日以後第一項ニ掲グル地域以外ノ地域(滿洲、第一項第二號ニ掲グル地域以外ノ支那及佛領印度支那竝ニ其ノ沿海ヲ除ク)ニ在リテ直接防衛ニ關スル勤務ニ從事シタル公務員ニ對シ恩給法第三十三條第一項第三號ノ規定ニ依ル加算ヲ爲ス

昭和十六年十二月八日ヨリ昭和十七年三月三十一日ニ至ル期間第一項第二號乃至第四號ニ掲グル地域(滿洲

第一項第二號ニ掲グル地域以外ノ支那及佛領印度支那

竝ニ其ノ沿海ヲ除ク)ニ在リテ危險ヲ顧ミズ共ノ職務

ヲ以テ勤務シタル公務員ニ對シ恩給法第三十三條第一

項ニ規定スル外國擾亂地勤務ノ加算ヲ爲ス

官房第一二八〇號ノ八

昭和十七年四月二十日

海軍省 副官

各廳長 殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規申左記ノ通改メラレ候

海軍公報(部内限)第四千七十二號

昭和十七年四月二十日

三九五

記

附錄 部隊區別符表(其ノ一)中「第三防備隊 ヲ四參」「第四同 ヲ四四」「第五同 ヲ四五」「第三根據地隊 ヲ四七」「第六同 ヲ四九」「第六防備隊 ヲ五〇」「第百四航空廠 ヲ五五」「第四氣象部 ヲ六參」「第四氣象部第一觀測所 ヲ六四」「同第二觀測所 ヲ六五」「同第三觀測所 ヲ六六」「同第四觀測所 ヲ六七」「第五十一警備隊 ヲ八九」「第五十二警備隊 ヲ九〇」「第五十三警備隊 ヲ九壹」及「第八特別根據地隊 ヲ壹壹四」ヲ削リ左ノ如ク加フ

第四十一警備隊	ヲ四四
第三特別根據地隊	ヲ四七
第六根據地隊	ヲ四九
第六十一警備隊	ヲ五〇
第四氣象象隊	ヲ六參
觀測所	ヲ六四
第四十二警備隊	ヲ六七

同削ル

(其ノ二)中「第百三航空廠」ヲ

第二海上護衛隊	ヲ八六
第六十二警備隊	ヲ八九
第六十三同	ヲ九〇
第六十四同	ヲ九壹
第八根據地隊	ヲ壹壹四
第百六航空廠	ヲ壹貳六
第百八同	ヲ壹貳七
第二海軍臨時設營班	ヲ壹貳八
第八十一警備隊	ヲ壹貳九
第八十二同	ヲ壹參〇
横鎮文庫出張所	ヲ壹參壹
第十四航空隊	ヲ壹參貳
元山航空隊	ヲ壹參參

同 (其ノ三) 中「第八十一通信隊 イ壹貳」ヲ「第十一通信隊 イ壹貳」ニ改メ「第八十一警備隊 イ參七」ヲ削リ左ノ如ク加フ

第一海上護衛隊 イ參六

同 (其ノ四) 中「第三氣象部 セ貳七」ヲ「第三氣象隊 セ貳七」ニ改メ末尾ニ左ノ如ク加フ

分遣隊	隊	人員
第一海軍臨時設營班		七五〇
第一百二航空廠		七五壹
第二南遣艦隊軍法會議		七五貳

海人機密第四七號

昭和十七年四月二十日

海軍省軍務局長
海軍省人事局長

關係廳長殿

恩給年敍勳年加算調書資料ノ件照會

本年官房第二三七九號ヲ以テ定メラレタル加算ニ關シ
首題調書ノ資料トシテ必要ニ付昭和十六年十二月八日

海軍公報(部内限)第四千七十二號

昭和十七年四月二十日

三九七

以後同十七年三月三十一日ニ至ル事項ヲ左記ニ依リ調査ノ上至急送付(軍務局長及人事局長宛各一通)相成度

追テ

一 本年內閣告示第三號第一項第四號ハ左ノ如ク解

ス
太平洋

但シ左ニ掲グルモノヲ除ク

(イ) 第一號ニ掲グル帝國ノ地域(南島島、南洋群島及新南群島)以外ノ地域ノ地域

(ハ)(ロ) 滿洲

第二號ニ掲グル地域(九龍半島(舊英國租借地)及香港島)以外ノ支那ノ地域

印度洋

(註)

(イ) 號ノ港域トハ軍港、要港其ノ他帝國ノ法令ヲ以テ定メラレタル港界ヲ指稱ス(ハ) 號及(ニ) 號ノ港域ハ右ニ準ズ

二 昭和十六年五月一日以後支那ニ付テハ昭和十三年內閣告示第四號支那事變ノ部第三項ノ規定ニ依リ又佛領印度支那ニ付テハ同十五年內閣告示第十

八號第三項ノ規定ニ依リ事變地勤務トシテ加算セラレアル處昭和十六年十二月八日以後モ仍從前通トス但シ九龍半島(舊英國租借地)及香港島ヲ除ク

記

- 一 戰地勤務加算及戰地外勤務加算ノ艦船部隊ハ別紙第一ニ依ル加算始終期調
- 二 航空基地勤務加算ノ航空部隊ハ別紙第二ニ依ル航空基地勤務加算始終期調 (別紙二葉添)

海人機密第四八號

昭和十七年四月二十日

海軍省人事局長

關係廳長殿

恩給年彼勤年加算ニ關スル件照會

本年官房第二三七九號ニ依ル加算ニ關シ調査上必要ニ付昭和十六年十二月八日以後同十七年三月三十一日ニ至ル間ニ於テ特命ニ依リ戰地ニ於テ直接作戰ニ參加シタル者ニ付テハ別紙第一ノ様式ニ依ル勤務調書一通ヲ又官房第二三七九號第二號該當者ニ付テハ別紙第二ノ

様式ニ依ル名簿三通(特務士官以下ニ付テハ別ニ在籍鎮守府ノ海軍人事部長宛三通)送付相成度 (別紙二葉添)

海人機密第四九號

昭和十七年四月二十日

海軍省人事局長

關係廳長殿

履歷書ノ記入ニ關スル件通牒

本年官房第二三七九號ニ依ル加算事項ノ履歷書(表)記入及通報等左記ニ依リ處理相成度

記

- 一 官房第二三七九號ニ依リ加算セラルベキ艦船部隊及加算期間ハ海人機密第四七號ニ依リ送付セラルベキ加算始終期調ニ基キ調査ノ上之ニ該當スルモノヲ恩給年彼勤年加算調書追録トシテ海軍公報附録ニ掲載スベキニ付履歷書(表)ハ該調書追録ニ依リ記入ノ上所要ノ手續ヲ行フモノトス但シ該調書追録接受ノ際當該所轄ニ勤務シ在ラザル者ニ付テハ其ノ記註事項ヲ轉勤先所轄ニ通報ノコト
- 二 昭和十六年十二月八日以後ノ戰務加算ニ關スル規

定公布前見込ニ依リ既ニ履歴書(表)記入(通報)濟ノ事項ニシテ加算調書追録ニ掲載セラレタル所ト抵觸セザルモノハ更メテ前號ノ手續ヲ要セザルモノトス

海人機密第五〇號

昭和十七年四月二十日

海軍省人事局長

各廳長殿

敍勳具申ニ關スル件通牒

本年官房第二三七九號ニ依リ加算セラルベキ艦船部隊ハ追テ恩給年敍勳年加算調書追録ヲ以テ發布セラルベキ處敍勳ニ就テハ差當リ海人機密第四七號照會ニ對シ送付ノ加算始終期調又ハ航空基地戰務加算始終期調ニ依リ(他所轄ニ勤務セシ者ニシテ加算ノ有無及加算期間ノ明カナラザルモノハ見込ニ依リ)加算ヲ附シ左記ニ依リ具申相成度

追テ本年四月一日以降ハ恩給法改正第三十二條ニ依リ更メテ告示セラルベキモ發令迄ハ外國鎮戍加算ヲ附シ具申相成度

記

一 戰地職務加算及戰地外職務加算 終期 昭和十七年三月三十一日
二 在職年計算終期 昭和十七年四月三十日

海人第七六號

昭和十七年四月二十日

海軍省人事局長

部内各廳御中

現役海軍士官名簿電報符改定等ノ件通知

本年一月十五日採用セラレタル海軍齒科醫少尉候補生ニ對スル電報符ヲ左記ノ通定メラレ候

追テ昭和十七年度現役海軍武官名簿(追録共)申齒科醫科ノ部ヲ技術科ノ次ニ入レ追録中ノ電報符ハ削除相成度

記

齒科醫少尉候補生淺野頼雄ヲ「D」トシ各任命順序ニ從ヒ順次相當番號ヲ附與ス

經給第六七號

昭和十七年四月十八日

海軍省經理局長

關係廳長殿

携帶給與通牒ニ關スル件通牒

海軍公報(部内限)第四千七十二號

昭和十七年四月二十日

三九九

1757

官房第二三七六號ニ依ル携帶給與通牒ノ取扱規程、様式等別冊ノ通定ム

(別冊添)

○ 辭 令

海軍造兵生徒ヲ免ス
南部 伸行

(各通)

事務員 小林 幸夫
遞信手 才木 一秀

第八海軍軍用郵便所員ヲ命ス
但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上^{四七〇}海軍省)

海軍豫備學生 中島 善丸

(各通)

同 林 郁也
同 廣川 聰弼
同 山口 和男

臨時第二南遣艦隊司令部ニ派遣ヲ命ス(四七〇同)

○ 雜 款

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

横須賀郵便局氣付 ヲ八參 ヲ壹參貳

(第十四航空隊)

吳郵便局氣付(軍事郵便) 七四五 七五貳

(第二南遣艦隊軍法會議)

別紙一

(昭和十七年四月二十日海軍公報(部内限))

加算		始期		終期		調		艦		船		部		隊		名	
	終	始	左	右	著	發	地	名	行	先	任	務	恩	給	率	記	事

1759

備考

- 一 行先ノ欄ニハ戰地戰務加算ニ付テハ布哇方面、南洋群島方面、比島方面、馬來方面、香港方面、ボルネオ方面、太平洋(内戰部隊及補給部隊ニ屬スルモノノ戰地戰務加算適用ニ關シテハ戰況及任務等ニ依リ定メラルルニ付其ノ概要ヲ記事欄ニ記載スルコト)方面等ノ如ク主ナル作戰地方面ヲ、戰地外戰務加算ニ付テハ所在地名ヲ記載スルコト
- 二 記事欄ニハ外戰部隊、内戰部隊又ハ補給部隊ノ別及之ニ所屬シ又ハ其ノ所屬ヲ解カレタル年月日ヲ記載スルコト
- 三 艦隊又ハ戰隊ノ旗艦タル艦船(司令驅逐艦、潜水艦、水雷艇、掃海艇、驅潛艇其ノ他司令部ノ所在スル艦船又ハ部隊ヲ含ム)ニ在リテハ備考トシテ旗艦、司令驅逐艦等タリシ期間ヲ附記スルコト
- 四 本調書ハ各艦船部隊(航空隊ヲ以テ編成セラルル艦隊又ハ戰隊ノ司令部及外戰部隊又ハ内戰部隊ニ所屬スル特設ノ各艦若ハ之ニ準ズル機關亦同ジ)毎ニ作成ノコト
艦船ニシテ既ニ除籍又ハ定員ヲ置カレザルニ至リタルモノ、徵傭船舶ニシテ解傭ノモノ、部隊ニシテ解隊ノモノニ付テハ最終ノ所管鎮守府ニ於テ作成ノコト
- 五 本調書ハ昭和五年軍務一第一八一號ニ依ル通報ヲ爲シタルト否トニ拘ハラズ成ルベク速ニ送付ノコト

別紙二

(昭和十七年四月二十日海軍公報(部内限))

航空基地戦務加算始終期		航空部隊名	
航空基地ノ地名	航空基地タル期間	所屬	記事

備考

- 一 本調書ハ當該航空艦隊(戰隊)司令部及海軍航空隊毎ニ作成スルモノトス
- 二 航空基地ノ地名ハ其ノ所在地名ヲ明細ニ記載スルコト
- 三 航空基地タル期間ハ昭和十六年十二月八日以後同十七年二月十二日ニ至ル間ニ於テ當該基地ヨリ直接戦闘ニ參加シタル期間トス
- 四 記事ノ欄ニハ當該航空部隊ノ固有所在地ヲ出發シタル年月日、航空基地ニ到着又ハ該基地ヲ離レタル年月日及戦闘參加ノ概要ヲ「」、方面ノ戦闘ニ參加スルノ如ク記載スルコト

1760

別紙一

(昭和十七年四月二十日海軍公報(部内限))

勤務調書	所轄長 印
職官氏名	
命令ノ日附、 要旨及下命者	
行動經過概要	
勤務概要	

備考

- 一 行動經過概要ノ欄ニハ最終ニ内地ヲ出發シタル月日及地名、行先、最初ニ内地ニ歸着シタル月日及地名等行動經過ヲ記載スルコト
- 二 勤務概要ノ欄ニハ勤務ガ直接作戰ニ參加セルモノナルコトヲ明ニスベキ概況ヲ記載スルコト

1761

別紙二

(昭和十七年四月二十日海軍公報(部内限))

航空基地戦務加算名簿		所		轄		
加算ノ始期	加算ノ終期	航空基地	年同上 月到着	官職階	氏名	入籍番號

(備考) 航空基地到着年月日ノ欄ニハ昭和十六年十二月七日以前ニ南支那又ハ佛領印度支那ノ基地ニ到着シタル者ニ限り記載スルコト

1762

(昭和十七年四月二十日海軍公報 (部内限))

(日本標準規格B5判)(表紙ノ紙質ハ相當強靱ナルモノヲ用フベシ)

(別冊)

何々第 號	官 (職)	氏 名
	一 曹	何 某

携 帶 給 與 通 牒 /

昭和 年 月 日 發 行

廳 名 圖

1763

取 扱 規 程 (昭和十七年官房第二三七六號)

- (1) 原所屬廳ノ給與掌理者ハ給與上必要ナル事項ヲ記入ノ上本通牒ヲ本人ニ交付シテ携帯セシムベシ
本通牒交付後給與條件ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ差額ハ原所屬廳ニ於テ之ヲ掌理スベシ
- (2) 家族渡中ノ給與ニ付テハ本通牒ノ當該摘要記事欄ニ「何經理部ニ於テ何程家族渡」ト朱書スベシ
- (3) 本通牒ノ携帯者ハ最寄ノ主計長又ハ之ニ準ズベキ者ニ之ヲ呈示シテ給與ノ支給ヲ受ケルモノトス
- (4) 本通牒ノ呈示ヲ受ケタル主計長又ハ之ニ準ズベキ者ハ所屬員ニ準ジ給與ノ支給ヲ爲シタル上本通牒ニ所要ノ事項ヲ記入捺印シテ之ヲ本人ニ返付スベシ
- (5) 原所屬廳ノ給與掌理者ハ其ノ支出(支拂)證憑書類又ハ同内譯書中本人ノ給與摘要欄ニ「携帯給與通牒ニ依リ委託中」ト記載スベシ
- (6) 受託掌理者本通牒ニ依ル給與ヲ掌理シタルトキハ所屬員ニ準ジ之ガ計算證明ヲ爲スベシ但シ其ノ支出(支拂)證憑書類又ハ同内譯書中本人ノ給與摘要欄ニ「携帯給與通牒ニ依リ何廳(本人所屬ノ廳)ヨリ受託」ト記載スベシ
- (7) 受託掌理者ハ本通牒ニ依ル給與ヲ爲シタルトキハ給與受給者ノ官(職)氏名及給與掌理期間ヲ受託掌理開始後速ニ原所屬廳ノ給與掌理者ニ通知スルモノトス
- (8) 本人原所屬廳ニ復歸ノ際ハ速ニ本通牒ヲ給與掌理者ニ提出スベシ
給與掌理者ハ委託期間中ノ給與ニ付所要ノ整理ヲ爲シタル上本通牒ヲ支出(支拂)證憑内譯書ト共ニ保存スベシ
- (9) 分離行動中所屬ヲ轉ジタルトキハ本通牒ハ之ヲ新所屬廳ノ給與掌理者ニ提出スベシ
新所屬廳ニ於テハ差當リ本通牒ニ依リ給與ヲ支給スル外原所屬廳ヨリ規定ノ給與通牒ノ送付ヲ受ケ前號ニ準ジ處理スベシ
- (10) 本通牒ヲ亡失シタル場合ニ於テハ最寄ノ給與掌理者ハ本人ノ申出ニ應ジ亡失直前ノ給與ノ事實ヲ記載シタル本通牒ヲ作成交付スベシ此ノ場合ニ於テハ此ノ旨原所屬廳ノ給與掌理者ニ通知スベシ

1764

(甲)

所 屬 廳		官 級 (職) 俸		善 行 章		特 技 章		氏 名	
軍 艦 何 々		一 級 曹 俸		何 々 線		何 々		何 々 菜	
支 年 月 日	俸 給	増 俸	臨時家族 手 當	特別加俸	何 々	何 々	何 々	計	支給者職氏名印
年月日	(摘要記事) (何 經理部 ニ於テ何程 家族渡)	(摘要記事)	(摘要記事) (何 經理部 ニ於テ何程 家族渡)	(摘要記事)	(摘要記事)	(摘要記事)	(摘要記事)		通 牒 發 行 者
									何 々 資 金 前 渡 官 吏 職 氏 名 團
年月日									受 託 掌 理 者
									何 々 資 金 前 渡 官 吏 職 氏 名 團
年月日									受 託 掌 理 者
									何 々 分 任 出 納 官 吏 職 氏 名 團

1765

備考 摘要記事ハ支出(支拂) 證憑内譯書又ハ支出(支拂) 證憑書類ニ於ケル給與摘要記事ノ内容ト一
致スルモノトス

(乙)

支年 月日	給 俸	給 増	俸 臨時家族 手當	特別加俸	何々	何々	何々	計	支給者職氏名印
年月日									
	円	円	円	円	円	円	円	円	
年月日									
	円	円	円	円	円	円	円	円	
年月日									
	円	円	円	円	円	円	円	円	
年月日									
	円	円	円	円	円	円	円	円	

1766

備考 摘要記事ハ支出（支拂）證憑内譯書又ハ支出（支拂）證憑書類ニ於ケル給與摘要記事ノ内容ト一
致スルモノトス

海軍公報 (部内限) 第四千七十三號

昭和十七年四月二十一日 (火)
海軍大臣官房

○令 達

官房第二四三一號

昭和七年官房第六五七號中左ノ通改正ス

例 昭和十七年四月二十一日

海軍大臣

表中職員ノ欄所員「專任」十四人判任」ヲ「專任」十
一人判任」ニ改ム

(海軍諸例則卷一、四三頁参照)

官房第二四三二號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十七年四月二十一日

海軍大臣

表中第十海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所長ノ次ニ「副
長 專任 一人 奏任」ヲ加ヘ所員「專任 二十九人 判
任」ヲ「專任 三十八人 判任」ニ、「專務 三十八人

雇員」ヲ「專務 五十五人 雇員」ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナ
リ(昭和十六年十一月二十六日本棚)

官房第二四三三號

昭和十年官房第四八八七號及昭和十二年官房第五九二
三號ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年四月二十一日

海軍大臣

参照 昭和十年官房第四八八七號ハ防寒被服ノ貸與並ニ著用方ノ件
ナリ(會計法規二卷二七三頁)
昭和十二年官房第五八二三號ハ半長靴ニ代ヘ特製防寒長靴貸
與ノ件ナリ(同年十一月二十二日海軍公報)

官房機密第四八二四號

昭和十四年官房機密第六五八九號中左ノ通改正ス

昭和十七年四月二十一日

海軍大臣

附則第四項ノ次ニ左ノム項ヲ加フ

(限 内)

海軍部
則例
除

海軍公報 (部内限) 第四千七十三號 昭和十七年四月二十一日

四〇一

1767

昭和十七年四月一日前機關術掌内火術特技兵臨時講習終了者中同日現ニ海軍特修兵ニ非ザルモノハ内火術特技兵臨時講習ヲ終了シタル者ト看做ス

(參照) 昭和十四年官房機密第六五八九號ハ各種特技兵(假稱)臨時講習員ニ人事取扱ニ關スル件ナリ(内令提要卷二、一一九頁)

官房機密第四八二五號

昭和十六年官房機密第四七一五號表中練習生種別欄普通科機關術練習生ノ次ニ普通科内火術練習生ヲ加フ

昭和十六年官房機密第一二六六二號第一號中「機關術(内火機械)」ヲ「内火術」ニ改ム

昭和十七年官房機密第二五四一號第二號表中「(掌機術)」ヲ「(掌主機械術)」ニ、「(掌内火機械術)」ヲ

「(掌補助機械術)」ニ改メ普通科機關術練習生(掌機術)ノ次ニ普通科内火術練習生ヲ加フ

昭和十七年四月二十一日

海軍大臣

(參照) 昭和十六年官房機密第四七一五號ハ各種練習生選抜資格條件中官職階、勤務日數、年齢等ニ關スル特例ナリ(内令提要卷一、六七〇、一頁)
昭和十六年官房機密第一二六六二號ハ海軍潜水學校練習生ノ選抜等ニ關スル特例ナリ(十二月三十一日本欄)

昭和十七年官房機密第二五四一號ハ高等科各種練習生及普通科各種練習生ノ選抜及採用ニ關スル戰時特例ナリ(二月二十七日本欄)

官房機密第四八二六號

大東亞戰爭中海軍工員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ海軍工員規則第十八條ノ規定ニ拘ラズ工員所屬ノ廳長(特設廳長ヲ含ム)ハ左ノ各號ニ依リ特別進級セシムルコトヲ得但シ工長ニ進級セシムル場合ニハ所屬長官ノ認許ヲ受クベシ
本令ハ危篤ニ際シ文官ニ任用セラレタル者ニ之ヲ適用セズ

昭和十七年四月二十一日

海軍大臣

一 戰死、戰傷若ハ戰病又ハ業務上ノ傷痕若ハ疾病ノ爲戰地(事變地ヲ含ム)ニ於テ危篤ニ陥リタルトキ級別二級以内

二 戰傷若ハ戰病又ハ戰地ニ於テ業務上ノ傷痕若ハ疾病ニ罹リ該傷病ノ日ヨリ三年以内ニ該傷病ノ爲危篤ニ陥リタルトキ又ハ健康上將來工員タルニ適セズ解僱若ハ徵用ヲ解除セラレタルトキ 級別一級以内

(參照) 戰死者等ノ定義ニ關シテハ昭和十七年官房第五八〇號(附

和十七年二月五日海軍公報(部内限)

○通牒

官房第二四三四號

昭和十七年四月二十一日

海軍省 副官

海軍諸則
刑除

各廳長 殿

献上品取扱ニ關スル件通牒

首題ニ關シ別紙ノ通官内次官ヨリ通牒有之候條了知相成度

(別紙)

官内大臣 房 官發第八一號

昭和十七年三月二十三日

官内次官 男爵 白根 松介

海軍次官 澤本頼雄 殿

通牒

献上品取扱ニ付別紙之通内務、外務、拓務ノ各次官へ通牒致候間御承知置相成度

(別紙)

官内大臣 房 官發第八〇號

昭和十七年三月二十三日

海軍公報(部内限) 第四千七十三號

昭和十七年四月二十一日

四〇三

通牒

官内次官 男爵 白根 松介

献上書籍ノ内容ニ關シテハ檢閲上疑義アルモノ、其ノ他不適當ト被認モノ往々有之爾後ハ一層周到ニ御銓衡方御依頼致度尙献上品ノ包装、表裝等ニ關シテハ華美ニ互ラサル様屢次通牒致置候處未タ其ノ趣旨ニ副ハサルモノ尠カラスト被認候ニ就テハ此等趣旨ヲ周知セシムル様關係ノ向ヘ御通達方相煩度

經豫第三號ノ八四

昭和十七年四月二十日

海軍省 經理局長

一 關係各支出官、資金前渡官吏 殿

昭南島ニ日本銀行代理店設置ニ關スル件 通知

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通大藏省理財局長ヨリ通知有之候條了知相成度

(別紙)

藏理第一二八二號

昭和十七年四月十三日

大藏省理財局長 山住 克己

海軍省經理局長 武井大助殿

今般國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ昭南島ニ設置シ昭和十七年四月二十日ヨリ之ガ事務ヲ取扱ハシムルコトト相成候條此段及通知候也
追而本件ハ官報ニ告示ノ手續ヲ採ラザルニ付御含置相成度申添候

經豫第三號ノ八五

昭和十七年四月二十日

海軍省經理局長

各支出官殿

赴任轉勤轉乘旅費ノ支辨科目ニ關スル件
通牒

一般會計並ニ作業會計支辨廳ヨリ艦船又ハ内地、樺太、朝鮮及臺灣以外ノ各地官衙部隊等ヘノ赴任旅費、轉勤轉乘旅費ハ臨時軍事費支辨ト定メラレ候條了知相成度

軍需糧第二八號

昭和十七年四月一日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係廳長殿



海軍徵備船ヘノ糧食品供給ニ關スル件通牒

昭和十四年官房第二三一號ニ依ル首題ノ件ハ左記ニ依リ處理相成度

記

一 供給元

海軍軍需部

特設海軍軍需部

(ハ)(ロ)(イ) 臺灣、支那其ノ他各地ニ在リテ糧食ノ出納又ハ

受拂ヲ爲ス海軍軍需部部員、特設海軍軍需部部員

(ニ) 艦船部隊主計長

供給手續及整理

(イ) 備船契約書條項ニ依リ船主調辦ノ上供給ヲ要ス

ベキ徵備船船ニシテ入手困難ナル場合ニ限り船長

ノ願出ニ依リ供給スルモノトス

(ロ) 供給元ハ供給ノ都度糧食品領收票ヲ徵スルモノ

トシ海軍軍需部及特設海軍軍需部以外ノ供給元ニ

在リテハ更ニ其ノ寫ヲ所管若ハ所屬ノ海軍軍需部

又ハ特設海軍軍需部ニ送付スルモノトス

(ハ) 海軍軍需部又ハ特設海軍軍需部(海軍軍需部部

員、特設海軍軍需部部員又ハ艦船部隊主計長ニ於

テ供給ノ分ヲ含ム)ハ各船毎ニ一月分ヲ取纏メ供

給集計表（別紙様式）ヲ作製シ速ニ海軍省軍需局ニ一通、備船契約應ニ四通ヲ送付スルモノトス

- (ニ) 備船契約應ハ右ニ依リ供給金額ヲ契約代價ヨリ差引クモノトス
- (ホ) 供給元ハ消耗拂トシテ整理スルモノトス
- (ヘ) 供給單價ハ時價ヲ參酌シ海軍省軍需局ニ於テ之ヲ定ムルモノトス
- (ト) 備船契約應備船ノ契約又ハ解備ヲ爲シタルトキハ其ノ都度之ヲ海軍省軍需部及特設海軍省軍需部ニ通知スルモノトス

三 豫算移用

海軍省經理局ハ前號(ニ)ノ供給金額ニ相當スル豫算ヲ海軍省軍需局ニ移用スルモノトス

昭和十五年軍需糧第二四二號ハ自然消滅トス

(別紙添)

(参照) 海軍會計法規集四卷一六一頁

軍需糧第二八號ノ二

昭和十七年四月一日

海軍省軍需局

關係各廳御中

海軍公報(部内限) 第四千七十三號

昭和十七年四月二十一日

海軍徴備船へ供給ノ糧食品單價ノ件通知
軍需糧第二八號ニ依ル首題單價別紙ノ通定メ候
(別紙添)

○ 辭 令

臺灣總督府專賣局書記 牧志 克常

海南警備府附ヲ命ス

神田 義祐

同 海南警備府附ヲ免ス(以上正副海軍省)

遞信屬 伊藤 備

第五海軍軍用郵便所員ヲ命ス

通信書記 山下 喜久造

(各通)

同 松本 鹿太郎

第二十五海軍軍用郵便所員ヲ命ス

通信手 石川 甚誠

(各通)

同 鶴卷 信三

同 宮川 政男

第二十五海軍軍用郵便所員ヲ命ス

同 山口 勅績

部内限判任官待遇トス

1771

事務員 赤岡 正男
 同 木暮 東洋男
 同 上原 俊馬
 同 田村 貞雄
 同 三橋 康人

第二十五海軍軍用郵便所員ヲ命ス
 但シ身分ノ取扱ハ雇員トス

(各通)
 遞信局技手 小山 稔
 通信書記補 倉澤 幸也
 工務員 平野 登

東京海軍通信隊附ヲ命ス(以上同)

海軍航空本部造兵監 鈴木 貞
 督官海軍機關中佐

名古屋監理官ヲ命ス
 名古屋監査官ヲ命ス(以上同)

海軍理事官 塚田 福太郎

特ニ命スル材料物品準備購入費及外貨支拂ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス(以上同) 海軍省經理局長)

海軍機關特務少尉 山崎 茂
 第一課勤務ヲ命ス(以上同) 海軍省軍需局)

海軍中將 二階堂 行健
 二月十七日官房機密第二〇五〇號模寫電送裝置實驗委員長ヲ命ス

(各通)
 海軍少將 佐々木 清恭(技研)
 海軍大佐 黒田 麗(同)
 同 高原 久衛(同)
 海軍中佐 鈴木 忠良(兵備)
 同 橋本 宙二(艦本)
 同 北川 金光(艦本)
 同 岡部 三四二(艦本)
 同 齋藤 忠康(教育)
 同 南 六右衛門(軍務)
 同 長井 弘介(軍令)
 同 矢島 彌太郎(吳廠)
 同 園田 又雄(横廠)
 同 志田 林太郎(佐廠)
 海軍造兵大尉 田邊 一雄(技研)
 海軍技師 諸澤 忠治(艦本)
 同 尾形 秀人(技研)
 海軍囑託 吉田 五郎(同)

二月十七日官房機密第二〇五〇號模寫電送裝置實驗

委員ヲ命ス(以上 ^{海軍} 海軍艦政本部)		兼海軍氣象部第一課長第二課長ヲ命ス(同 ^{海軍} 水路部)	
海軍中佐 松本 龜太郎		海軍中佐 島村 信政	
海軍中佐 渡邊 謙治郎		海軍中佐 石原 英男	
海軍技師 佐村 謙		海軍技師 藤井 義之	
同 松崎 卓一		同 織畑 重太郎	
同 守田 康太郎		同 寶來 邦太郎	
氣象事務囑託		海軍書記 春名 政男	
海軍技師 谷口 止美雄		海軍技師 松原 映治	
同 三原 源次郎		同 星 三郎	
同 村田 新吉		同 金子 義春	
同 金子 義春		同 金子 義春	

第一課勤務ヲ命ス		第二課勤務ヲ命ス	
(各通)		(各通)	
海軍中佐 松本 龜太郎		海軍中佐 島村 信政	
海軍中佐 渡邊 謙治郎		海軍中佐 石原 英男	
海軍技師 佐村 謙		海軍技師 藤井 義之	
同 松崎 卓一		同 織畑 重太郎	
同 守田 康太郎		同 寶來 邦太郎	
氣象事務囑託		海軍書記 春名 政男	
海軍技師 谷口 止美雄		海軍技師 松原 映治	
同 三原 源次郎		同 星 三郎	
同 村田 新吉		同 金子 義春	
同 金子 義春		同 金子 義春	

第二課勤務ヲ命ス(以上 ^{海軍} 海軍氣象部)	
同	平澤 英譽
同	渡邊 和夫
同	松山 徳義
同	小川 敏一

○ 雜 款	
○ 郵便物發送先 自今左ニ依リ發送相成度	
横須賀郵便局經由(軍事郵便) ウ五〇 七參七氣付 (りん丸 艦長)	
吳海兵團内 海軍主計特務中尉、竹川國藏 (特設砲艦羅門丸)	
普通郵便 吳郵便局氣付(軍事郵便) 七肆四五七貳〇	
航空郵便 臺北郵便局氣付(軍事郵便) 七肆四五七貳〇	
追テ至急書類及重要書類等ハ特ニ航空郵便ニ依 リ發送相成度 (第三十五航空隊)	

海軍公報(部内限) 第四千七百三十三號 昭和十七年四月二十一日

四〇七

1773

○事務所設置

第三十號驅潜艇艦裝員事務所ヲ四月八日岡山縣玉野市
玉三井造船株式會社玉工場内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

第八海軍航空廠假事務所ヲ四月十五日第二十一海軍
航空廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○殘務整理

特務艦襟裳殘務整理ハ四月十日ヨリ吳海兵團内ニ於テ
行フ

横須賀鎮守府第二特別陸戰隊ノ殘務整理ハ自今第一警
備隊内ニ於テ行フ

南支海軍特務部殘務整理ハ在香港南支海軍特務部殘務
整理事務所ニ於テ行フ

追テ郵便物ハ臺北在勤武官府氣付在香港南支海軍特
務部殘務整理員事務所宛送付相成度

1774

(別紙)

昭和 年 月 日

(昭和十七年四月二十一日海軍公報(部内限))

海軍省軍需局
船舶契約應宛

糧食品供給集計表(月分)

海軍軍需部

備考 品目欄ハ何々外何廉ノ如ク記載スルモノトス

供給元	供給先	領收票番號	品目	金額	記事

考備	海軍徴備船へ供給ノ糧食品單價														
	品目	單位	單	價	品目	單位	單	價							
本表記載以外ノ品目ニ對スル單價ハ供給元ノ定ムル所ニ依ル	凝脂	同		八五〇	火酒	立		三〇〇							
	鹽	甍		〇七〇	麥粉	同		三〇〇							
	植物油	同		七五〇	生果物	甍		五〇〇							
	酢油	立		二二〇	生牛乳	立		四〇〇							
	醬油	同		二五〇	舊漬物	同		三五〇							
	茶物	同		一〇〇	新漬物	同		一八〇							
	乾物	同		七五〇	味噌	同		二六〇							
	豆糖	同		三八〇	生野菜	同		一八〇							
	砂糖	同		四六〇	乾魚肉	同		八五〇							
	罐詰果物	同		八〇〇	燒魚肉	同		九五〇							
	罐詰野菜	同		七五〇	鹽魚肉	同		六五〇							
	罐詰味付魚肉	同		一〇〇	無骨生魚肉	同		九〇〇							
	罐詰魚肉	同		一〇〇	骨付生魚肉	同		五〇〇							
	羅詰味付鳥肉	同		三〇〇	雞卵	同		一四五〇							
	罐詰鳥肉	同		二八〇	骨付生鳥肉	同		一六〇〇							
罐詰味付獸肉	同		二五〇	無骨鹽獸肉	同		七〇〇								
罐詰獸肉	同		三五〇	無骨生獸肉	同		一八〇〇								
糯米	同		三九〇	骨付生獸肉	同		一五五〇								
精麥	同		二七〇	燻獸肉	同		二一〇〇								
精米	同		三一〇	罐詰牛乳	甍		一二〇〇								
乾パン	甍		六三〇												

(別紙)

(昭和十七年四月二十一日海軍公報(部内限))

(部 内 限)

海軍公報 (部内限) 第四千七百七十四號

昭和十七年四月二十二日(水)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房機密第四六一號

本年四月十五日現在紀伊防備隊職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ海軍定員令ニ依ル紀伊防備隊ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和十七年四月十五日

海軍大臣

官房第二四六二號

青年勤務員教育要領ニ依ル青年勤務員養成所長ハ海軍官印規程第三條ノ規定ニ拘ラズ職印ヲ備フルコトヲ得

昭和十七年四月二十二日

海軍大臣

○ 通 牒

經給機密第三九號

昭和十七年四月二十一日

海軍省經理局

關係各廳御中

海軍戰時給與等ノ取扱方ニ關スル件申改

正ノ件通牒

昭和十六年經給機密第四五號中左ノ通改正ス

記

第二、一、(イ)本邦

(1)「昭和十六年官房機密第一二六三九號」ノ下ニ

「及昭和十七年官房機密第二八二二號」ヲ加フ

(2)ノ第二項及第三項トシテ左ノ二項ヲ加フ

團隊ノ補缺員ニシテ本邦所在各部(第三項ニ該當

スルモノヲ除ク)ニ勤務ヲ指定セラレタル者ニ對

スル増俸又ハ増給ハ指定勤務應ニ付定メタル率ニ

依ル但シ昭和十六年官房機密第一二六三九號第一

項第六號及同十七年官房機密第二八二二號ニ規定

セラレタル各部ニ勤務ヲ指定セラレタル場合ハ前

海軍公報 (部内限) 第四千七百七十四號

昭和十七年四月二十二日

四〇九

1777

項ニ規定スル増俸又ハ増給ノ率ニ依ル
補缺員ニシテ戰地ニ在ル各部及昭和十六年官房機
密第一二六三九號第一項第一號乃至第五號ニ該當
スル各部ニ勤務ヲ指定セラレタル場合ハ各々其ノ
部ニ付定メラレタル率ニ依ル

第二、二、(イ)甲地域沿岸ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

(五) 海 域

對敵行動ノ爲沿岸ニ關係ナク航海スル艦船乗員ニ
對シテハ昭和十七年官房機密第三七七七號及同年
經給機密第二九號ノ定ムル所ニ依リ支給ス

同 (ロ)支給區分ヲ左ノ通改ム

給與令、臨時給與令、特例給與規則及昭和十七年官
房機密第三七七七號ノ定ムル所ニ依ル

第二、四、食料又ハ糧食ノ部ヲ左ノ如ク改ム

(イ) 陸上各部

(一) 本 邦

(1) (2)及(3)ニ該當スルモノヲ除キ給與令ノ定ム
ル所ニ依ル

(2) 繁劇ノ職務ニ従事スル各廳ノ准士官以上、
候補生及軍屬ニハ昭和十二年官房第四三一四
號ニ依リ左ノ要領ニ依リ食料ヲ支給ス(海軍

戰時給與規則第二十條ノ二)

宿直勤務中併セテ大東亞戰爭ニ關シ繁劇ノ職
務ニ従事スルトキ亦同シ

a 居殘服務ヲ命ゼラレ執務午後六時以後ニ
及プトキ 一食分

b 詰切服務者及居殘服務翌朝ニ及プトキ 三食分

c 公暇日出勤ヲ命ゼラレ執務四時間以上ニ
及プトキ 二食分

d 公暇日出勤ヲ命ゼラレ午前ニ出勤引續キ
執務午後六時以後ニ及プトキ(公暇日詰切
服務者及居殘服務翌朝ニ及プトキモ同斷)

(3) 給與令第七十九條ノ二ニ依リ食料ノ支給ヲ
受クル者及給與令第八十七條ニ依リ常時食料
ノ換給ヲ受クル者引續キ在隊服務午後九時以
後ニ及プトキハ規定食料ノ一食分ヲ夜食料ト
シテ支給ス(昭和十七年官房第二〇〇二號)

(二) 支那及佛領印度支那

臨時給與令第六條ニ依リ食料又ハ糧食ヲ支給ス
臨時給與令施行細則第七條ニ依リ食料ノ支給ヲ

支那及佛領印度支那
臨時給與令第六條ニ依リ食料又ハ糧食ヲ支給ス
臨時給與令施行細則第七條ニ依リ食料ノ支給ヲ

受クル者各部ニ在リテ引續キ服務午後九時以後ニ及ブトキハ規定食料ノ一食分ヲ夜食料トシテ支給ス（昭和十七年官房第二〇〇二號）

(三) タ イ
 特例給與規則第八條ニ依リ食料又ハ糧食ヲ支給ス
 特例給與規則第八條ニ依リ食料ノ支給ヲ受クル者各部ニ在リテ引續キ服務午後九時以後ニ及ブトキ規定食料ノ一食分ヲ夜食料トシテ支給ス（昭和十七年官房第二〇〇二號）

(四) 甲 地 域
 タイニ同シ但シ南洋群島ニ在リテハ給與令ニ依ル（特例給與規則第九條、給與令）
 夜食料支給ニ關シテハ(一)(3)ニ同シ

(ロ) 艦 船
 (一) 本邦沿岸
 給與令ノ定ムル所ニ依ル（海軍戰時給與規則第一條）
 夜食料支給ニ關シテハ(一)(3)ニ同シ

(二) 支那及佛領印度支那沿岸
 給與令ノ定ムル所ニ依ル（臨時給與令第一條第

二項）
 夜食料支給ニ關シテハ(一)ニ同シ

(三) タ イ 沿 岸
 給與令ノ定ムル所ニ依ル（海軍戰時給與規則第一條）
 夜食料支給ニ關シテハ(一)ニ同シ

(四) 甲 地 域 沿 岸
 タイ沿岸ニ同シ
 夜食料支給ニ關シテハ(一)ニ同シ

第二、六、手當金(イ)(一)トシ(二)及(三)トシテ左ノ二號ヲ加フ

(二) 外戰部隊ニ屬シ内地ニ在ル艦船及航空隊（殘留隊ヲ除ク）職員ニハ左記決裁ニ依リ海軍戰時給與規則第九條第一項及第二項ヲ適用ス

記
 昭和十七年二月二十七日官房第一〇八〇號決裁
 今次戰役ニ於ケル外戰部隊所屬艦船乗員及航空隊（殘留隊ヲ除ク）隊員ニハ一時的ニ帝國領土（南洋群島ヲ除ク）内及同沿岸ニ在ル場合ニモ派遣手當ヲ支給シ得ルコトニ解釋ヲ一定シ可然哉

(三) 前號ニ該當スル各部ニ轉勤スル場合ハ舊所轄ニ

海軍公報（部内限）第四千七十四號 昭和十七年四月二十二日 四二一

於テ支給スルコトヲ得

○ 辭令

水路部部員海軍主計中佐、深瀬 清太郎
會計部長缺員中同職代理ヲ命ス(附各水路部長)

○ 雜款

○ 旗艦變更
鎮海防備戰隊司令官ハ四月十五日旗艦ヲ香港九ニ變更セリ

○ 郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度
鎮海郵便局氣付 香港丸司令部
(鎮海防備戰隊司令部)

○ 練習生採用試驗問題發送

第十三期丙種飛行豫科練習生採用試驗問題
右四月十八日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向
ハ至急通知相成度

一 單獨試驗豫定各部ハ直送
一 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部長、各警備府副

官宛送付
一 行動其ノ他ノ都合ニ依リ聯合試驗參加不能ノ向ニ
對スル分トシテ各海軍人事部長、各警備府副官宛若
干部送付
(第十一聯合航空隊司令部)

○ 旅行順路
當隊來隊者旅行順路左ノ通
所在地 愛知縣西加茂郡保見村伊保ヶ原
東京方面ヨリ

東海道線岡崎驛下車名古屋鐵道(地方鐵道)岡崎
舉母驛間十九、一軒舉母保見村間二里一町(地方
應測定)

刈谷以西ヨリ

東海道刈谷驛下車名古屋鐵道(地方鐵道)刈谷驛
舉母驛間十九軒、舉母驛保見村間二里一町(地方
應測定)
追テ轉勤者ニシテ往々名古屋驛ニ下車スル者ア
ルニ付出發應ニ於テ可然指示相成度
(名古屋海軍航空隊)

○ 殘務整理
第二防備隊殘務整理ハ第二十二特別根據地隊内ニ於テ
行フ
追テ郵便物ハ吳郵便局氣付 セ參貳

海軍廣瀬部隊内

(手東部隊残務整理員)

○事務引継

前任 會計部長 海軍主計中佐 山川 廣一

後任 會計部長職務代理

海軍主計中佐 深瀬 清太郎

四月十六日事務引継了ス (水路部)

海軍公報(部内限) 第四千七十四號 昭和十七年四月二十二日

四一三

1781

海軍公報(部内限)第四千七十五號

海軍大臣官房

昭和十七年四月二十三日(木)

○令達

官房第一九九七號

當分ノ間大阪警備府附屬艦船部隊(特設艦船ヲ含ム)

ニ於ケル船體、機關又ハ兵器(航空兵器ヲ除ク)ノ修理工事ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年四月一日

海軍大臣



(限)

一 大阪警備府司令長官ハ附屬艦船部隊(特設艦船ヲ含ム)ノ船體、機關又ハ兵器(航空兵器ヲ除ク)ノ修理ヲ要スルトキハ所定豫算額ノ範圍内ニ於テ之ガ施行ヲ阪神方面ノ部外工場ニ請負ハシムルコトヲ得但シ兵器ノ修理工事ハ兵器造修規則第四十二條及同第四十三條所定ノ範圍内ニ屬スルモノニ限ル

艦船造修規則及兵器造修規則中修理ニ關スル規定ハ前項ノ修理工事ニ之ヲ準用ス

二 前號ノ豫算額ハ毎年度初頭海軍艦政本部長ヲシテ

大阪警備府司令長官ニ通報セシム

三 修理ニ必要ナル材料物品ハ吳海軍工廠ヨリ供給ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ノ取扱主任ハ大阪海軍經理部部員タル主計科士官トシ昭和十五年官房第四七二號ニ準ジ處理スルモノトス

四 工事實施ノ場合ノ契約及支拂ハ大阪海軍經理部長ニ於テ之ヲ處理スルモノトス

五 大阪警備府司令長官工事ノ査定検査等ノ爲必要アルトキハ大阪海軍監督長ノ協力ヲ求ムルコトヲ得但シ兵器修理工事ノ査定及検査ニ付テハ同監督長ノ協力ヲ求ムルモノトス

六 大阪警備府司令長官ハ工事費整理規則第十號書式、第十五號書式、第十六號書式及第十七號書式ニ準ジ科目別及艦船別ニ當該年度總所要額ヲ翌年度六月末日迄ニ海軍艦政本部長ニ通報スルモノトス

官房第一九九八號

當分ノ間海軍工作廳ニ於テ艦船造修規則又ハ兵器造修

海軍公報(部内限)第四千七十五號

昭和十七年四月二十三日

四一五

1782

規則ニ依リ他鎮守府(警備府ヲ含ム)在籍艦船又ハ部隊ノ修理工事ヲ施行シタル場合ノ工事費ハ當該工務施行應ノ豫算ヲ以テ之ヲ支出シ海軍工務費整理規則第三十六條ノ規定ニ依ル豫算ノ分割ハ之ヲ行ハザルコトヲ得

昭和十七年四月一日

海軍大臣

官房第二四五九號

昭和十二年九月二十二日ヨリ同十四年四月二十一日迄ノ間ニ見習工員ヲ成業セル工員ニ對シ海軍工員規則第九十九條ノ規定ニ依リ本年四月誓約賞與ヲ支給スベシ誓約賞與支給標準ハ誓約期間滿了ニ依リ昇級シタルトキノ賃錢四十八日分トシ、誓約期間滿了ノトキ海陸軍ニ徵集又ハ召集中ノ者ニ對シテハ再備又ハ復歸ノ際其ノ賃錢ニ依リ之ヲ支給ス但シ各廳長ハ必要ニ應ジ適宜減額支給スルコトヲ得

昭和十七年四月二十二日

海軍大臣

官房第二四七五號

當分ノ間横須賀防備隊ハ軍鳩ニ關スル研究及實驗ヲ行ヒ且必要ニ應ジ其ノ講習ヲ實施スルコトヲ得

昭和十七年四月二十二日

海軍大臣

官房第二五一四號

昭和二年官房第一〇八九號中「日額 一圓四十錢」ヲ

「日額 一圓五十五錢」ニ改ム

本令ハ昭和十七年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

昭和十七年四月二十三日

海軍大臣

參照 昭和二年官房第一〇八九號ハ事務補助ノ爲海軍省等ニ出服スル下士官兵ニ旅費日額支給ノ件ナリ

○ 辭 令

千九百六拾八圓 伊藤 又吉
千六百貳拾圓 陸軍少尉正八位 星野 正直
(通) 千參百八拾圓 雜賀 大三
徵用中年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(海軍省)

軍令部出仕海軍機關少佐 田中 三雄
 第三部勤務ヲ命ス(増訂軍令部)

○ 雜 款

○永久服役
 左記ノ者ハ四月二十二日海軍武官服役令第八條ノ規定ニ依ル現役ニ服セシメラル

海軍軍醫大尉	橋本 正己
同	根津 一夫
同	芳野 泰禮
同	遠藤 眞次
同	宮澤 寅男
同	内藤 英男
同	中平 正美
同	野田 丈市
海軍軍醫中尉	後藤 克巳
海軍藥劑中尉	三木 康平

○司令艇變更
 第一掃海隊司令ハ四月二十日司令艇ヲ第五號掃海艇ニ變更セリ

○郵便物發送先
 自今左ニ依リ發送相成度

臺灣高雄市馬公海軍建築部
 追テ當部宛郵便物ハ所在地名記載ナキ爲屢々馬公經由配達セラルル爲事務處理上遲延ヲ來ス場合相當有之ニ付自今必ず前記ノ通表記相成度
 (馬公海軍建築部)

佐世保郵便局經由

第一海軍軍用郵便所氣付 第二氣象隊
 (上海海軍航路部氣象觀測所)

司令、隊宛

隊機關長、軍醫長、主計長宛 卷 雲
 (第十驅逐隊)

横須賀郵便局經由

第三十四海軍軍用郵便所氣付(軍事郵便)
 (香取司令部)

佐世保郵便局經由(軍事郵便)

第四十一海軍軍用郵便所氣付
 (神 祥 丸)

當戰隊宛郵便物ハ從來浮島丸司令部、富津丸司令部ニ送付シ來ル爲事務處理上支障來シ居リ候條爾今當分ノ間左ニ送付相成度

佐世保防備隊内司令部
 (佐世保防備隊司令部)

海軍公報(部内限)第四千七百七十五號

昭和十七年四月二十三日

四一七

○事務所移轉
隼鷹艦裝員事務所ヲ本月六日艦内ニ移轉セリ
追テ郵便物ハ吳郵便局氣付

○殘務整理
當隊(太安丸、第三號太平丸) 殘務整理ヲ羅津根據地
隊内ニ於テ行フ
追テ郵便物ハ
羅津防備隊司令部 今井主計特務少尉宛
(第四十七掃海隊)

1785

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千七十六號

昭和十七年四月二十四日(金)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第二五三一號

昭和六年官房第三三五六號中左ノ通改正ス

昭和十七年四月二十四日

海軍大臣

第二號艦營需品及燃料ノ項範圍ノ欄中「海軍軍需部(要港部軍需部、軍需部支部、軍需支庫及特設海軍軍需部ヲ含ム)」ヲ「海軍軍需部(軍需部支部、軍需支庫及特設海軍軍需部ヲ含ム)」又ハ特設海軍燃料廠ニ改メ、「燬房」ノ次ニ「實驗及研究」ヲ加フ

(參照) 昭和六年官房第三三五六號ハ艦營需品燃料及治療品ノ總稱供給ヲ爲シタル場合ノ取扱方ノ件ナリ(會計法規集四卷二二七頁參照)

○ 辭 令

臺灣總督府交通局書記 高崎 芳郎
海南警備府附ヲ命ス(三) 海軍省)

玉野監理長ヲ命ス
玉野監查長ヲ命ス

海軍艦政本部造船監督官 鶴岡 信道
兼 陸軍監督官海軍大佐

(各通)

玉野監理官ヲ命ス

海軍艦政本部造船監督官 加藤 恭亮
海軍監督官海軍中佐 福間 武美
海軍監督官海軍技師

玉野監查官ヲ命ス(以上同)

海軍技術會議議員海軍大佐 木山 辰雄
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(同)

○ 雜 款

○ 執務參考書類付ニ關スル件照會
昭和十六年橫鎮第一四二七號(昭和十六年九月九日海軍公報掲載)照會ニ依ル首題參考書類付希望者通知ヲ取纏メ候處其後官術、部隊、艦船等新(特)設、改編並ニ希望者ノ異動(轉出、死亡等)多數有之各部ニ於テモ配付困難ト豫想致サレ候條改メテ希望者ヲ取纏メ

海軍公報 (部内限) 第四千七十六號

昭和十七年四月二十四日

四一九

1786

別紙様式ニ依リ來五月十日迄ニ到達スル様通知相成度
尙代金ハ現品引換ニ拂込トシ既ニ現金拂込ノモノニテ
異動者(轉出、死亡等)ノ分ハ各部ヨリノ通知ヲ俟テ
善處可致候

(別紙添)

(横須賀鎮守府)

追テ執務參考書ハ六月末日發行ノ豫定ニ有之候

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

四月二十九日以後到達見込ノモノハ

横須賀郵便局氣付 軍艦秋津洲
(秋津洲艦裝具事務所)

吳郵便局經由 セ貳壹 セ參九氣付

(辰 宮 丸)

○事務所設置
第四監視艇隊設立事務所ヲ四月十日横濱船渠内第一號
明治丸ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○殘務整理
加茂川丸殘務整理ハ四月二十日ヨリ横須賀水交社内ニ
於テ之ヲ行フ

(別紙)
件名番號

昭和 年 月 日

(昭和十七年四月二十四日海軍公報(部内限))

執務參考書頒付希望者通知

所 轄 名

計	部	郵便物宛先	官	職	氏	名	配付番號
			官	職	氏	名	配付番號

- [註]
- 1 配付番號ハ本府ニ於テ記入スベキニ付空欄ニナシ置クモノトス
 - 2 應用ノ分ハ本府ニ於テ適宜部數ヲ定メ配付スベキニ付本紙ニ記入ナザルコト
 - 3 計及郵便物宛先ハ必ズ記註ノコト

1788

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年四月二十四日 (金)
海軍大臣官房

○ 令 達

官房第二五二八號

昭和十七年四月一日前ニ於テ掌機兵 (掌機術專修) 及掌工兵 (木具專修) タリシ者竝ニ機關術掌機術特技兵ノ人事取扱ニ關シテハ自今左表ニ依リ處理スルモノトス

昭和十七年四月二十四日

海 軍 大 臣

(限 内 部)

兵 機 掌 (專) 普通科 (掌機術修) (專) 高等科 (掌機術修)		舊 呼 稱 特務士官准 士官名簿ノ 專修別	昭和十七年四月一日以降ニ於ケル人事取扱區分
普 機 四一九號ニ依	高 機 從前ノ呼稱其ノ儘トス但シ特技兵ニ對シ昭和十七年官房機密第七四一九號ニ依	人事通報 略語ノ特技 高等科練習生 へノ選抜	專修別ニ依リ課スベキ試験問題等 拔擢名簿ノ副製等
普機 (機) 專修ノ兩者ニ選	高機 (機) 掌主機械術專修及掌補助機械術專修ノ兩者ニ選	既往ニ於ケル經歷又ハ本人ノ志望ニ依リ掌主機械術專	試驗施行ノ區分ニ依ル 掌主機械及掌補助機 械ノ各配置ニ

海軍公報 (部内限) 號外

1789

兵 工 掌		特 技 兵	機 關 術 掌 機 術
(普通科) 專修(木具)	(高等科) 專修(木具)		
普 (木具)工	高 (木具)工	/	
リ特技章ヲ付與 スル場合ニ於テ ハ普通科機關術 練習生(掌主機 械術、掌補助機 械術專修)教程 卒業者トシテ付 與ス			
普工(木)	高工(木)	普者 機(機)	特技兵 間ハ 機
模 型 專 修 ノ 兩 者 ニ 選 拔 ス ル コ ト ヲ 得	/	者 ニ 限 ル	拔 ス ル コ ト ヲ 得 但 シ 特 技 兵 ハ 掌 機 兵 ト 爲 リ タ ル
		シテ課ス	修、掌補助 機、械術專 修、模型專 修又ハ舟艇 專修ニ區分
ス 木 具 ト			
ト ス ル コ ト ヲ 得	各 配 置 ノ 模 型 及 舟 艇	ヲ 得 ル コ ト	配 員 ス

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千七十七號

海軍大臣官房

昭和十七年四月二十七日(月)

○令 達

官房機密第五〇九四號

昭和十六年官房機密第一二五七七號中左ノ通改正ス

第十三海軍軍用電信所ノ事務開始ハ追テ之ヲ定ム

昭和十七年四月二十七日

海軍大臣

表中第五海軍軍用電信所ノ項ヲ削リ左ノ如ク加フ

第十三海軍軍用電信所	メナド	右	同	第二南遣艦隊	所 長	專任 一人 奏任
					所 員	專任 八人 判任 五人 雇員

(昭和十六年十二月二十九日本欄参照)

官房機密第五〇九五號

南洋方面所在ノ通信隊(第四艦隊所屬ノモノヲ除ク)ニ於ケル兵器及機關ノ修理工事ニシテ同方面ノ部外工場ニ請負ハシムル必要アル場合ハ昭和十六年官房機密第一二三〇號ノ規定ヲ準用ス但シ第二項ノ修理豫算ハ請求ヲ俟テ通報セシム

昭和十七年四月二十七日

海軍大臣

○通 牒

軍務一機密第二九七號

昭和十七年四月二十二日

海軍省軍務局長

各艦隊 各鎮守府 各警備府 參謀長殿
課税品陸揚ニ關スル件申進
最近占領地等ヨリ歸著セル徵備船舶乘員ニシテ課税品

海軍公報(部内限) 第四千七十七號

昭和十七年四月二十七日

四二一

1791

ノ陸揚ニ際シ關稅ヲ通脱密輸入ヲ爲シタルモノ相當有之様聞及候處目下占領地ハ關稅法上外國トシテ取扱ハレ居リ候條艦船、特設艦船及徴備船舶ニシテ内地港灣歸著ノ場合ハ作戰上支障ナキ限り當該艦船部隊ノ長又ハ船長ニ於テ稅關官吏ヲ招致シテ檢査ヲ請求シ又ハ稅關官吏ノ乘員訊問、所持品點檢ノ請求ニ對シ便宜ヲ與フル様一般ニ示達相成度

恩第八五號

昭和十七年四月二十七日

海軍省人事局

關係各廳御中

恩給受給權證明書ニ關スル件通知

昭和八年恩第四〇九號ニ依ル恩給受給權證明書ハ本年勅令第二百四十四號恩給法施行令中改正附則第二條ノ規定ニ伴ヒ當分不要ノコトト了知相成度

(參照)

〇昭和十七年勅令第二百四十四號恩給法施行中改正附則

第二條 恩給受給者ハ當分ノ内裁定官廳ニ恩給法施行令第一條ノ二ニ規定スル書類ヲ提出スルヲ要セ

ズ

〇恩給法施行令

第一條ノ二 受給者ハ左ノ區別ニ從ヒ調査上必要ナル書類ヲ裁定官廳ニ提出スヘシ

一 前條第一項又ハ第三項ノ事實ヲ證スル爲ニハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ在リテハ戶籍抄本、扶助料權者ニ在リテハ戶籍謄本

二 前條第二項ノ事實ヲ證スル爲ニハ不具癡疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキコトヲ證スル居住地ノ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書

前項ノ書類ハ事實カ裁定官廳ニ顯著ナル場合又ハ他ノ相當官公署ノ證明アル場合ニ於テ裁定官廳カ明カニ之ヲ承認シタルトキハ其ノ承認ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一條ノ三ニ規定スル書類ヲ提出スヘキ月カ恩給ノ裁定ヲ受ケタル月(證書ノ日附ニ在ル月)ノ翌月ヨリ十二月内ニ在ルトキハ其ノ書類ヲ提出スルコトヲ要セス

(備考) 昭和八年恩第四〇九號ハ會計法規類集三卷五四五頁ニ出ツ

艦本機密第一號ノ四二八七

昭和十七年四月二十四日

海軍艦政本部總務部長

各艦隊
各鎮守府
各警備府
參謀長殿

砲口覆ノ使用ニ關スル件照會

彈頭信管及三年式一號信管裝着彈丸ハ海水飛沫除假製
砲口覆ヲ裝着ノ儘射擊セサルコトニ取計相成度
追テ彈頭信管裝着彈丸射擊ニ支障ナキ砲口覆ニ付テ
ハ目下研究中ニ有之候

艦本第一四號ノ二一一三

昭和四年十一月艦本第五九五三號海軍共濟組合病院會
計整理科目表中左ノ通改正シ昭和十七年四月一日ヨリ
之ヲ適用ス

昭和十七年四月二十七日

海軍艦政本部長

一 收入科目中經常部ヲ左ノ如ク改ム

項	目	解	疏
健康保險 收入		昭和十六年七月艦本第一四 號ノ三八四四ニ依リ海軍共 濟組合ヨリ支拂フ分	

海軍公報(部内限) 第四千七十七號

昭和十七年四月二十七日

四二三

外來診療料	入院料	手術料	齒科診療料	世帯員(家族)診療料	組合員患者收入	保險給付診療負擔金	保險給付診療負擔金	保險給付診療負擔金	保險給付診療負擔金	世帯員(家族)患者收入
看視料ヲ含ミ手術料ヲ含マズ	入院中ノ手術料	入院中ノ手術料				共濟組合規則第六條第一項ノ規定ニ依ル分	同右	看護婦及助産婦派出料、健康診斷料、檢査及文書料等ニシテ共濟組合規則ニ規定ナキ分	同右	共濟組合規則第八十三條又ハ同第百十八條ノ規定ニ依ル分

1793

事務費	二 支出科目中經常部事務費ノ各目ヲ左ノ如ク改ム									
	雜入	辨償金	代用品拂下	土地、營造物貸下料	利子	雜收入	入院料	診療費	一般患者收入	保險給付外診療費
二 支出科目中經常部「健康保險部負擔金」ノ欄中並ニ國庫負擔金ニ相當スル金額「ヲ削リ、慰安費ヲ「體育修養費」ニ改ム										
二 支出科目中臨時部營造物造修費ノ項目ヲ左ノ如ク										
諸給	戰時増俸	戰時食料	諸手当	賞與	諸支出金	諸謝金	旅費	備品	消耗品	通信費
報酬、給料及臨時勤續加給			勤勉手当、宿直手当、臨時家族手当、被服料及昭和十三年官房第一六一九號ニ依ル諸増給等	定期賞與、臨時賞與	退職賞與、勤續賞與、扶助料等	臨時備入者ニ對スル諸給與並ニ謝禮金等	研究員、講習員及召喚旅費	事務用備品購入並ニ修繕費	事務用消耗品購入費	郵便切手代、電話機使用料等

1794

改ム		營造物造修費		營造物新營費		營造物新築費	
營造物造修費	營造物新營費	營造物新築費	營造物造修費	營造物新營費	營造物新築費	營造物造修費	營造物新營費
初度調辨費	新築營造物ニ設備スル器具	機械等購入費	營造物造修費	營造物新營費	營造物新築費	營造物造修費	營造物新營費
營造物造修費	營造物改築、模様替、購入費並ニ修繕費						

科	利益	科	目	疏
健康保險收入				
組合員患者收入				
世帯員(家族)患者收入				
一般患者收入				
雜收入				
施設補償金				
補助金				

第三損益科目中利益科目ヲ左ノ如ク改ム

寄附金	缺損金

○ 辭令

海軍省事務ヲ囑託シ部内限判任官待遇トス(海軍省)

角石 秀夫

海軍省事務ヲ囑託ス

地質調査所技師 三土 知芳

海軍省事務ヲ囑託ス

内務技師 末松 榮

横須賀鎮守府ニ於ケル事務ヲ囑託ス(以上三同)

伊藤 克巳

(各通) 千五百圓

谷口 清治

第二南遣艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(三同)

白水 松三

海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

臺灣總督府交通局技師 田邊 彝亮

海軍公報(部内限) 第四千七十七號

昭和十七年四月二十七日

四二五

1795

臺灣總督府屬 齋藤 安治
臺北帝國大學書記 澁谷 好之
臺灣總督府交通局技手 中野 一治
近藤 直達
佐藤 四郎

新竹州警部 野村 讚治
高雄州警部 村島 三郎
臺南州警部 桑畑 泰治
臺中州警部 西村 憲爾
臺北州警部補 石橋 金光
臺中州警部補 西田 等
臺南州警部補 西田 等

海南警備府附ヲ命ス(以上) 石岡 兵三
臺北帝國大學助教授 石岡 兵三

海南警備府附ヲ命ス(附) 江口 辰五郎
五百圓 內務技師 井關 正雄
四百圓 同 笠原 章司
貳百圓 內務技手 菅野 一
貳百圓 京都市土木技手 河村長一郎
百八拾圓 內務技手 秋本 健三
百八拾圓 同 曾根 三千夫

(各通) 曾根 三千夫

立木 虎雄
平賀 博
向井 徹

海軍省事務囑託ノ報酬トシテ金(各頭書ノ通)ヲ贈
與ス
海軍省事務囑託ヲ解ク

海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待
遇トス

海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待
遇トス

東京音樂學校長 乘杉 嘉壽
東京音樂學校教授 平井 保三
東京音樂學校教授 下總 覺三
東京音樂學校教授 馨 壽夫

東京音樂學校長 乘杉 嘉壽
東京音樂學校教授 平井 保三
東京音樂學校教授 下總 覺三
東京音樂學校教授 馨 壽夫

海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス

海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス

海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス
海軍軍樂隊東京分遣隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額（各頭書ノ通）ヲ給シ部内限奏任官
待遇トス

海軍少將 本田 忠雄
支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス（以上_{昭和十七年四月}同）

○ 雜 款

○司令艇變更
第一掃海隊司令ハ四月二十日司令艇ヲ第五號掃海艇ニ
變更セリ。

海軍公報（部内限）第四千七十七號

昭和十七年四月二十七日

四二七

1797

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千七十八號

昭和十七年四月二十八日(火)

海軍大臣官房

○ 令 達

官房第二五三四號

海軍工員規則第六十五條ニ依ル本年五月ニ於ケル工員ノ定期一般昇級ハ四月二十一日在籍ノ男工員及女工員一人ニ付各五錢以内ヲ以テ五月二十一日附實施スベシ本令施行ノ細目ニ關シテハ海軍省經理局長、海軍艦政本部長、海軍航空本部長及海軍施設本部長ヲシテ夫々關係ノ向ニ通牒セシム
海軍燃料廠ノ職員ニ對シテハ本令ヲ準用スルコトヲ得
昭和十七年四月二十四日
海軍大臣

○ 通 牒

官房第一二八〇號ノ九

昭和十七年四月二十八日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房機密第一二八〇號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

第一號(七)ニ左ノ二項ヲ加フ

尙左ノ港灣ニ入港ノ場合ハ内報セザルモ右ノ如ク取計ハルルニ付必ず郵便局窓口ニ差出スコト

イ) 軍港、要港

ロ) 釧路、厚岸、父島、大阪、神戸、門司、基隆、高雄

○ 辭 令

(各通)

通信書記補 藤原 武男
遞信局書記補 稻葉 晃

第七海軍軍用郵便所員ヲ命ス

事務員 上國料啓二

海軍公報 (部内限) 第四千七十八號 昭和十七年四月二十八日

四二九

1798

(各通)

同 後藤 森太郎
集配員 白石 常士

第七海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上^{三〇四}海軍省)

海軍技術會議議員海軍大佐 杉本 丑衛

海軍航空本部技術會議議員ヲ命ス

海軍技術會議議員海軍大佐 杉浦 嘉十

(各通)

海軍技術會議議員海軍中佐 三木 高秀

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(以上^{三〇五}同)

海軍主計大尉 矢野 泰男

第百一海軍建築部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂

ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(以上^{三〇六}支出官 海軍

省經理局長)

海軍主計中尉 鳩山 威一郎

第四課勤務ヲ命ス(以上^{三〇七}海軍省經理局)

海軍特務大尉 川西 三郎

○ 雜 款

○司令驅逐艦變更

第八驅逐隊司令ハ四月二十三日司令驅逐艦ヲ朝潮ニ變更セリ

○郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度

横須賀郵便局氣付 ヲ八參 ヲ八九 (第六十二警備隊)

當分ノ間第四水雷戰隊司令部宛郵便物ハ夏雲司令部參謀宛送付相成度

○殘務整理

第七砲艦隊殘務整理ハ昭徳丸ニ於テ之ヲ行フ

(第七砲艦隊)

○正誤

四月十八日令達欄官房第二三七八號中「運送船(特設運送船ヲ含ム)」ハ「運送艦(特設運送船ヲ含ム)」ノ誤